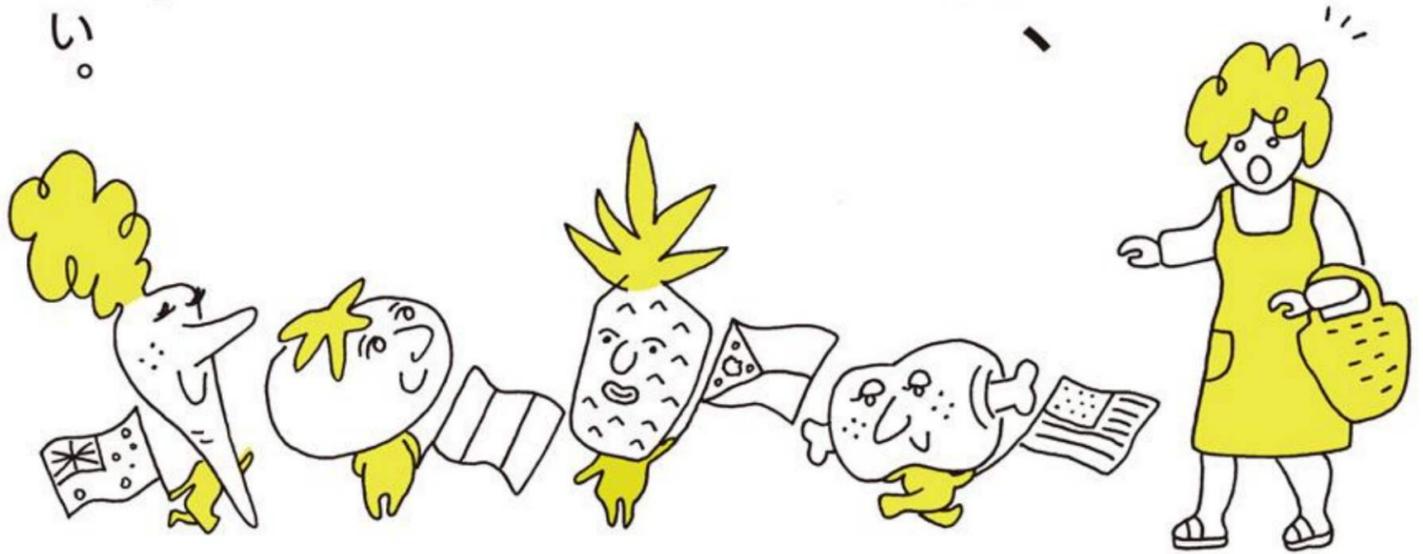


近所の
スーパーは、
もはや、
外国だ。



日本の農業や食料の
将来はどうなつてゆく？

和智先生、教えてください。

中国、アメリカ、ブラジル、オーストラリア、
フィリピン、メキシコ…。

世界中で生産された野菜や果物、お肉や乳製品などが
私たちの身近なスーパーの店頭に並んでいます。

まさに経済のグローバル化がもたらした光景ですが、
こうした光景が「日常」化した理由について考えることも
農業経済学という学問の大きな目的の1つです。

日本の農業は、いま大きな分岐点にあると言えます。
低迷を続ける食料自給率、世界的な自由貿易の潮流、
そして農業従事者の減少と高齢化…。

暗く思える日本農業の将来ですが、
その一方で、農業に新しい価値を見出す人々が
あらわれていることも事実です。

そうした人々と農業をさらに強く結びつける
仕組みづくりがこれから重要になってくるでしょう。

日本農業の将来は、
決して暗いものではないと私は考えています。

経済学科

教授 和智達也



和光3分大学

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学